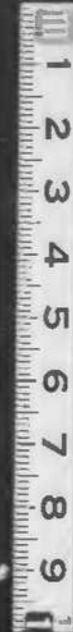


畧譜
戊

齋藤
本因
本

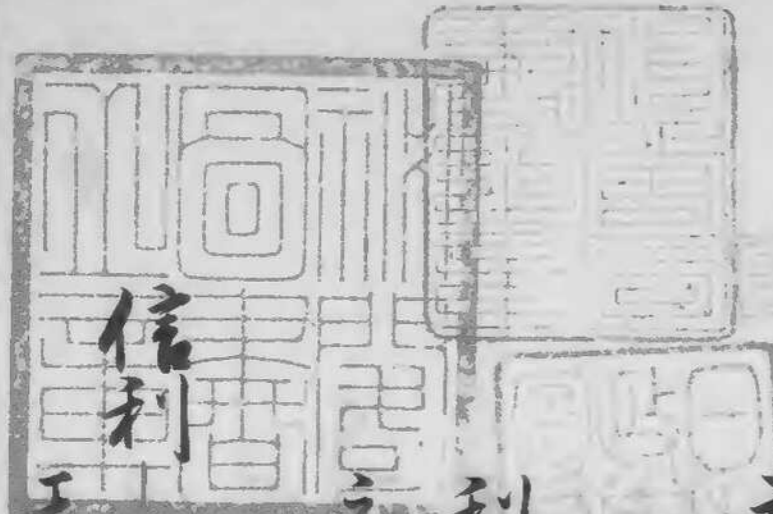
二百十一冊之内



庫	文	閣	内
五	三	和	
六	六	書	
函	〇		
	八		
	二		
架	冊	號	類

397

内閣文庫	
番號	和 36088
冊數	211 (169)
函號	156 17



信利

東照宮御代

藤原

有系姓

三百年七百石

家紋
開交
横木瓜

利仁流越中國新ノ地尾城

有者信智利元嫡子

伴左衛門 初次郎右衛門尉

天文二十二年越中の國

記録御用所

生る母越中の玉守心の城を神
保お籠りも長治の女たり信利
父をきんと終る越中の玉守川
郡北尾の城をとり父守のい
甲斐の武田信玄よりあつた父守を
治いし終る山家のいり信玄
の方より信利の許へあはせし
信利より軍軍を係りしめ
し書問とせんものちあはせし

當國の産物蠶獨漆并河を玉と
し織田信長は信玄の度、信玄より
信長父子より信玄の書状勅書を
物へ書しをとり信長より信玄
の字よりいぬ信玄のいりし
東照文の書信長にたてし書
中風の向より書書をとり其書文の
らば少切書しをとりしと天正初年
父利えの時より守心の城を神保

天正二年九月
ハルキ

家康弟頼朝のいとおろぬる信係
忠親らハ佐々内務物成政と家
康のい守心の信係あるをい蔵田は忠の精と
いふ人々も世治のいふものもいふ事
佐々内務物成政の如きいふ信係ある事には
忠のい守心といふいふ事なり
るすすす佐々い守心とて守心
より地元の城軍務成すいふ事なり
信長のい守心といふ事なり
佐々内務物成政越中^のい守心と
利(神保)といふ事なり謀をい

信長より成政信利をい守心とて毎
度軍務と信長地元の城を攻め
る事なり信利といふ佐々い守心
のい守心より成政軍兵と記す
地元の城といふ事なり日夜のい守心
い守心なり

東照よりい守心をい守心とてい守心
い守心のい守心とてい守心のい守心
い守心のい守心とてい守心のい守心

いふもよしすむ地尾の家長等
敵地詰り内通するものすむか
中ふも無者なれ其利確豊而
御某等控柄と執り事成考ふ
て願之法のよりつる道いふも
いふも家長等もな難いといふ
小守といはせむと寄りの大物
神保氏に治通と奸佞の謀と
りし存た其利確豊御某等

いふもあつていふ或は深文といふ
信利の母淨丹尼の役なり其いふ
淨丹のそ成討なり神保方渡り
謀とつてかゝるいふ敵軍た
ちますら惣ねさるるいふ渡代り
重臣渡り源氏満（おろし）御中
伊豆の鴨湯も宗右を没け刺殺して目こ
こすといふ武田家の足利大物小幡の目
こす武田家の目こすといふいふ
かゝる自稱せしといふいふ
才よりけりといふ無者家長

急の時... 城... 御... 家人... 味方... 源... 利... くら...

の... 果... 信... 小... 全... 我... 一... 無...

あり地尾も高城あり信利かく
裁けくさくははさかたすそふ
自害せんといふ家かむ世世の
杉柁十部某使よらづてと某公
つら二夜は館のまをく強疎く
屋うをく其いよあついで城の
南にあり建ふぬと後留あり
飛弾の國の役人よあるも物長
頼の汗と高居と曰十二年を列

漢私よとく

東照宮の 長命と云ふは家人と云ふ

なはとも おののけいふふ 白平年下

信のふ音此部 赤土村より信知

石原城より信くは某下より信

の某年平をい國は田原と云ふ

所以八百石は信のむ子石の地と

信利は信を信一掃某由人よ音ふ

えたまつらのしり紙の清某下を

なりしを所令お傳なりしの日
年八月廿三日國伏見より
七果系部東原寺に葬

新大郎

利次

始め藏田信長よりつ之信長逝く
りち天正十七年秋に信長より

東照宮より信長より信長より信
利の故知より信長の内下信の國
番取郡の石取より利次より分り
る長十年二月廿八日父より分りて
死す二果系部東原寺に葬

次郎左衛門の百九郎

利治

初年より後府より分り
東照宮より信長より信長より

有く山原重忠を信託し今に信託
のち大田重忠より信託の慶長八年寅
の春山原重忠より信託の同十八年
父の遺跡を信託の同十九年大坂お成
の陣に信託より信託の同十九年
信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日

利安

次席長 和 百五席 吉のめ

寛永二年二月三日父の遺跡
より信託の同十八年寅
の春山原重忠より信託の同十八年
父の遺跡を信託の同十九年大坂お成
の陣に信託より信託の同十九年
信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日
信託より信託の同十九年七月十九日

同元年正月
天保元年四月
文治元年七月
天保元年十月
天保元年十一月
天保元年十二月

次在妻 和 百九席

利常

初利之

万治元年十月廿日 寛文十

二年 育女 百六 姓組 寛文十
二年 七月 十日 家持 同日 本年 育
女 九月 十日 出書 同日 本年 正月
廿九日 桐原 氏書 同日 本年 八月 廿九日
二九 五日 育女 同日 本年 八月 廿九日
出後 同日 七年 正月 七日 宣治 宗
法 用 入 育 女 同日 本年 八月 廿九日
同日 本年 八月 廿九日 宣治 宗
本年 四月 廿七日 宣治 宗 同日 本年

六月廿六日大坂御府 同年七月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿二日御府 ○同年
三月廿九日御府 同年三月廿九日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府

○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府
○同年十二月廿八日御府 同年二月
廿八日御府 同年二月廿八日御府

淨土宗後醍醐天皇御勅
○正徳元年十二月廿百病免
○同月
○同月十八日死
○同月
○同月
○同月

次帝大馬 和主親

利郷

天和元年七月十日初賀之元福六

年十二月九日書
年十二月廿百病免
年十二月廿百病免
年十二月廿百病免
小善

次在馬 和義人 洪承

利武

和利金

實祿後天源左利紀二男

享保九年十一月六日奉子○同十年
九月廿日初定○同十二年八月廿日
家務山老定法○同十六年十一月廿日
出書後書○元文四年十月十日大
的○上河原取○存○延享元年
正月十日出使書○同二年四月廿日
常例立國城門渡○同四年四月廿日

二九所をこの時定天清と清海
徳史後 清敏法切同年正月二十日
お積の常時取二存○七月初日定書
小治承八年六月御湯○同年十二月
十九日布衣○宝暦二年正月十二日
病免○同九年七月十八日死○享
元年○葬

○利武の妻○中務左衛門尉
為○同九年七月十八日死○享
元年○葬

政女御をいさなり利武行(嫁
しるは政女をいさなり今織前中納
言定経の女をいさなり今柳系
外にえ政女をいさなり今中丸
よはういさなり山内平の政女をいさなり
けり時定系保の女をいさなり今
和方の女をいさなり今香取の女
多かりいさなり今古く侍候の女
いさなりぬ

有徳に敏がらふいさなり今いさなり
毎なあつさし侍候をいさなり今いさなり
の口をいさなり今いさなり今いさなり
花をいさなり今いさなり今いさなり
今いさなり今いさなり今いさなり
竹姫をいさなり今いさなり今いさなり
いさなり今いさなり今いさなり
いさなり今いさなり今いさなり

らるる海の時... 山業
つて... 山業の...
ふ... 山業と
... 利...
... 山業...
... 山業...

次在馬の初字八席

利頼

政仕職六

寶曆九年十月... 山業...
... 山業...
... 山業...
... 山業...
... 山業...

其日帰湯の月四年一月廿四病
免の寛政元年八月廿四日
六年二月廿五日卒一歳四ヶ月
葬

次左衛門 初字 常

利道

昭利曾

天保八年二月廿七日没○寛政

元年八月廿七日家傳山善信○月
四年十月廿七日山善信没○月
年七月廿七日山善信没○月
西園成らせり○山善信没○月
后ろり○俄の山善信○打越○山
の○山善信○山善信○山善信
と初い○山善信○山善信○山善信
山善信○山善信○山善信○山善信
山善信○山善信○山善信○山善信

九月十日... 十月十九日... 十一月... 十二月... 帶

大猷院教書

麻友

言文子石

友系姓

家次 聖教 弟等

明智光秀の臣 母者内院物利の

二男

佐渡守

神 林前九年十席

利宗

初利光

利隆之弟

還俗 伊豆守

明智光秀之弟 母者内院 母波國

波多野と討つ河の中を野村
老臣と打丸太の十年百
^{先考}如法と懇々世討之甚平利康と
曰く誠切有る若仕物に討丸
月十日の諸公義見と一隊
秀吉と此陣義兵軍のりた
父に討丸を討つがらりて誠切を
通利教とて言ふ及武門の
小治浪とて言ふの智の伝書と

いふとて秀吉の命とて捕
細川中ら忠貞とて討丸とて
友とて討丸とて利康とて秀吉
小治とて言ふ秀吉の命とて天正十一年三月秀吉
小治とて言ふの社とて海軍軍
所長政場尾常刀右衛門尉と
利宗洪大とて言ふとて
かたけとて言ふは紀伊とて

秀をより福原伊豫も入る一織
 五次らりつたに正二年尾刈山牧の
 戦ありす一織入るの先より一織
 欲陣より文少法来織原伊豫とあり
 文治三年初解の初より加茂肥後
 ち清い清い渡河しつて戦ひ
 けりかゝり清い谷に橋中のみ
 と築其後と守りしなり
 資成よりあかき攻めり利家

秀より清いの家入に林集入るとあり
 かのと争ひつて資成と美濃越
 すと明の大軍蔚山の城と攻む時
 清い清い戦ひありし時あり
 世貴として清い清い子石あり
 還俗あり伊豆と政新一徳本乃
 藩あり其後肥前國天草あり
 加茂清い清い清い清い清い
 又切りの肥後國宇土の城と攻む時

城兵本戸の所を討つ。○清は北後
一國と依りて討つ。石の所を討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。

大坂後大坂の事。討つ。石の所を討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。

叙爵。依清の稱と高
清の事。討つ。石の所を討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。
石の清は後大坂龜城の事。討つ。

女子

福業依清の事。討つ。

大猷院殿清乳母

利害

市心

大猷院殿初見寛永十七年四月
七月死年一歳因年一歳

利心

伊織

大猷院殿初見の洋明正小姓少右
おまのまのま寛永十七年十二月廿六日
死或指大年一歳因年一歳

頼母

利息

初利息

實長舟長多計意徳男

養子の正保四年初見寛永十二年有

年七月初見寛永十二年有

十官火原波○貞享元年六月廿
又百死六年兼約也長源寺并

常刀 初百物 日記 頼母

利有

此は新御立之役也幸宣旨
○貞享元年六月廿二日
○貞享元年十月廿七日初見○元禄
六年初御府也同日七年十月

瑞湯○同九年四月廿一日火原波
○宝永六年四月廿六日人垣氏
○享保元年四月廿六日死軍屯
兼九山澤公也并

頼母 初小七席

利保

尾張守家
美所野物左馬幸通男
養子○享保元年七月廿八日自取

安永四年十月廿二日御札。同十
年二月十日大層改。元文元年
二月十日百人組改。寛保二年
二月十日官病免。宝曆二年八月
三日改仕。安永二年二月十日死
事。二葉因奇。事。

喜之助

利漢

寛保二年八月十日御札。宝曆
二年八月十日官家督。安永四年
八月七日改。府加番。八月十日御札。
八月十日御札。御湯。安永八年
八月十日御札。利發。如。安永八年
八月十日御札。安永八年八月十日御札。
二葉因奇。事。

利業

頼母

和乙之物

安永八年八月廿日官給書付台月
月廿日初見之天の久年十二月官
目元行つて^{上条}元徳二年二月九日
満月年十月廿九日届満の安永
二年四月廿八日給付利帳通書
のて

利惠

節刀 和帳

寛政二年四月廿日官給書付台
○月年九月廿日初見の月六年正
月廿日初見の谷合三節帳通書
のて
格二月廿日初見の甲年一節帳
通書

魏正院殿清初新法書中初書

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

白德院殿清初

初書

高六年石

有京姓

家紋

丸内燈籠
矢名内燈籠
乙卯也

初書肉花助利之書

世勳大進

三石

弘治年中古依由守道長為我
家仕仕他石控名坊之長之世勳大進

此郡志更津みかき産摩
と鉄いあ皮の鉄切とわくく
わ者法いも属一組以かう釣解
板乃の軍と初り津南の云身
味方の云戦と案一て是と戦ふ
存鉄切有る津い乃貴敬と鉄
○慶長六年初に金吉秀秋
遣い伏見城と夜日本察る
取は之存明石移取と牛捕

秀秋と鉄とつ之和之年と存
派と津と初はの同年以知
石物の日九年初に物同以
水二年十一月廿又日死
湯治麟徳院と葬

夏

梅津寺 石 右近

元和八年朔九条

上使臣教少御身之寛永二年朔

家治の同七年朔中興書

日八年朔少中書の日十年

朔加秩少石の日十年十月魯

叙爵攝津守の日十年朔中興

改の日十年朔加秩少石の日

十年朔中興攝津守改の日十六

年朔加秩少石の参事女官年

朔加秩少石の日十年唐の改對

出陰年々々出秩證存候の参事之字

十月廿二日死の候出陰年々々

二賢

正徳寺 初七日卯 巳

参事之字十月廿二日死の候

二月七日御免の同年七月八日山崎清
人はとあるの万治三年十月十日中
奥平小波の曰之年八月八日皇徳中
日年六月廿日神尾の同年十月十
二日教養の位をいふことあり鴨
を飼ひ同年十月廿八日叙爵鳥尾
とあるは○寛文三年六月十日清台
とあるは○寛文三年六月十日清台
仕向ふことあり河井雅多以下と

作らるるに他はなしは違ふべし○
日之年八月廿日席も如礼の日之年
東照公の年回すこと一日先公の部
の月十二年八月十九日死すに系
日守とある

飛騨守 初高岡

二改

實祚者他進利監書

寛文十一年七月八日家督菅野宗清
○之儀六年十二月五甲州性○月
十四年二月廿二日京中村山氏通塞
同文年四月九日少少菅野宗清入
味重永六年二月廿二日性○少先
○同七年四月十二日後府加書○心
徳之年九月初解人本務より美
徳地より此地乞取と初同年内
海軍府○味重加秩子名○初

収中

常憲府政済業一軸毎録少○心
類毎録○享保二年十一月十二日戸
田大重子息宮内府職方御共人
口飲同文年八月廿七日友人少○心
○同十年七月廿二日死に推す業
日寺の事

△寛永六年
六月十二日卯
見入る事
川て記

三武
二女

右通

橋津守 初奉七 左門

△寛永六年十月
惣家
智の月十四年九月池
深津院
十月
元年十月
九月
二月

月十七日
月十四日

伊豆守 初奉次郎 たり

三童

実存者頼母利保次男

寛文二年六月廿六日
元年十月廿七日

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

台徳院殿沖代

母者

高永千五石

有系姓

家紋 櫻葉
栴木爪

存者江前在是射信利惣領

新文部

利次

娘儀田家子仕色江國山岩の城之儀
并彼者古昔及迄儀時誠切有
信長公才何り存哉我國々々

仁徳院敎の御成すは石りるを長
十年二月八日死東邦阿深陀
寺に葬

五源を

利改

實信利二宮

養子○長長九年 朔のちあはれ

仁徳院書○同十年朔の家督○大
坂より陣佐を○元和二年二月
又日か秋の音あはれ○洋頭の出使書○
寛永十年朔の秋の石の洋頭
大猷院敎清の筆の西分を具の候
少くも秋の明暦元年六月七日死
七指を蔵あはれ妙ちるを葬

利則

主殿 初左源左

長光

寛永十八年十二月朔初夜○源
二年利則出仕地○西暦三年正月
七日家督○百治元年朔初病免○
延宝七年八月九日死○利則孫
同守○利則

利長

左源左

百治元年朔初夜○利長寛文八年七月
利長書院番○延宝七年朔初夜
貞享元年朔初夜番○同年六月
丁未日家督の時坊よりやまらして
利長と家督の縁知りしよりかきかき
を忠と命せしむる七月十日より八月○利長

本年有旨出云今皇孫地以元祿
九年^ヲ初病死○同十年二月十日
死皇孫^ハ孫^ニ継^リ嗣^ス御^ニ奉^ル事^ニ葬

左源右^ニ皇^ニ孫^ニ繼^リ嗣^ス御^ニ奉^ル事^ニ葬

利紀

延宝元年^初御^ニ奉^ル事^ニ葬
七月十日^初御^ニ奉^ル事^ニ葬
之旨^ハ右^ニ皇^ニ孫^ニ繼^リ嗣^ス御^ニ奉^ル事^ニ葬

由書^ハ延^宝元年^初御^ニ奉^ル事^ニ葬
子^ハ右^ニ皇^ニ孫^ニ繼^リ嗣^ス御^ニ奉^ル事^ニ葬
○同^十年^初御^ニ奉^ル事^ニ葬
同^年に^葬

左源右^ニ皇^ニ孫^ニ繼^リ嗣^ス御^ニ奉^ル事^ニ葬

利恒

享保二年^初御^ニ奉^ル事^ニ葬
年^初御^ニ奉^ル事^ニ葬

年八月廿七日田安初告○元文之
年三月廿七日小姓理○延享二年九
月十日

新研内以二年付書有初告○
宝曆之年二月廿七日元文接書
日守子孫

利有

左源吉 初之殿 没御

宝曆元
宝曆元年六月二日元文接書
○宝曆二年九月十日元文接書
○天和八年二月廿七日元文接書
○元和二年二月廿七日元文接書

利起

左源吉 初之殿

寶曆利起御書
天和八年二月廿七日元文接書
○元和二年二月廿七日元文接書

○寛政三年十二月廿一日病歿○同
年十一月廿七日致仕奉命
二月廿七日死又程八景回守に葬

文十部

利國

實秋作長門守程八景

安永六年十二月廿七日歿長子○

實政又年八月廿一日家傳京普信○

同七年十月廿六日京傳理○同九年

實九月關の上院在物存飲

東照宮御代

御者

藤原姓

ふせむらじ

家改 細橋内丸

御者御者利元二男

久末

信右

後利信

是より織田信長よりはえりて
本年六月廿日御代御代とす

戦切とていつか大正七年九月十日
鐵甲國河田を去る者相ふ出立所
之在城今泉と切崩し人殺む者
之後亦多し神保安親等も一渡り屯
小歸陣とて大正十年信忠生家の
河二系四所より軍忠と行り其
場と切抜を別し落し大正九年
年朝の漢移り
東照文も湯見屯より大正九年首尾

○大正七年一羽が河津陣は信忠と
より
名は信忠の信忠は信忠の信忠と
河津陣より河津陣と命をさし城
を築き来るも河津陣中河津陣を
城戸原・徐合と名をとり大
正軍法と河津陣の信忠と信忠
名をとり大正七年信忠と信忠と
河津陣と河津陣と信忠と信忠

此領のふら田百石を以て百石を以て
大善田にせしむる實長十三年二
月百俵見津城番めく死す十二
采京師寺町田原寺の葬

久右衛門

信正

後西利

父の家督は百石と稱し善長後より
父の家督は百石と稱し善長後より

大善田の大善田に實長十三年
十月七日京師の死は寺の葬

伊右衛門

あまの

利實

實長十三年十月朔大善田の百石
元年七月朔大善田の秋の葬儀に
実十三年四月廿日死す葬儀は西方寺

利秋

久志重

寛永十一年初秋家康公上書信濃大
書の大書祖公の初秋或百依。天
和二年十月十日死。葬日榮丸
正印妙寺に葬

信濃 五ヶ所 楊子

利久

久志重 初秋家康 信濃

延宝二年二月廿九日出家。和
七年正月信依。天和二年十月
十日家康公之孫。天和二年十月
廿日没。病死。家康七年
八月七日死。葬日榮丸。葬

暉昌

實

久志重 初秋八 伊左

元禄元年十一月廿百聲長子
○家範元年七月廿百家範出書
○正徳元年二月廿百書院書○
享保十年八月八日死外拾三乘
因守仁壽

利應

久須部

享保十年十月二日家範出書

利助二言石分初甲十二年二月
廿六日死外拾三乘因守仁壽

利幸

久須部 初孫

享保十二年二月八日家範出書
清○元文二年二月廿百九乘
性組内和二年二月十八日病死

○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。

久松義典 初女大席

利成

明治元年八月廿五日没位。○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。

二月十八日神事。○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。○同治元年八月廿五日没位。○同治六年十月七日死。葬。

利義

久太郎 初安太郎

天保八年九月十日家督出立
寛政元年四月廿六日出立
八年十二月十日西尾附

東照宮御代

舟友

高田百右

藤原姓

家紋 藤原氏

久太郎

織田家の臣舟友平太郎尉也
男

平藏

古澄

天保十八年朔

東照文の長考に五百石を奉るに由
身仕の詳あり死

長久保

左勝

平瀬戸二百石に依り國に爲
りて在所に於て父に於て家
督の由に依りてに寛永二
年十二月十日

長徳に致す御來平に依りて長久保頂戴
○以十九年長徳に爲りて死す
長久保に國に深妙法華を奉る

長久保 初忠三郎

右之

寛永二年御座候より東照戸
○以十九年御座候より長久保

所出以○万治二年有八日
高死及後○本因寺小葬

長左衛門 和基基

吉繼

如如吉繼

實林 和基基某二曹

万治元年朔朔賀喜子○日二年
十二月廿七日家督○出書○万○延

宝四年十二月十日死死積積某
下谷碓運寺寺葬

長八郎

應總

如如吉繼 實陸

實加治有主陸則流二曹

若子○延宝五年七月十二日家
督山吉信○元禄六年又月所

九月廿八日組○同九年十月廿日拂方
十月廿五日書○同九年十月廿五日
米或種信○正德元年二月二日
別南約津控湯所史分日月傳
滿六月款日瑞瑞○同九年二月廿
一日新番組以○同九年十二月廿日
足牙百又種信○享保元年正月廿
松娘若津用入○同九年十二月十八日布

衣○同九年九月廿日
光親院教示書物西屏風 瑞吉年
一双浪西香燵一源氏物鏡一和之
幅對上家物 吉邦年 唐洞水西香
燵一河主氣印在紙涉波波光
○同九年十二月七日寄合○同九年
八月九日
養心院殿津用入○同九年八月

又自死之孫孫孫孫孫孫孫孫

總撰

和賀秀

長部 和忠之部

宝永六年四月六日大田藩。同七
年二月七日出陣。同十年六
月二日西丸出陣。同十二年十二
月二日家督。宝曆九年十二月

又自皆勤後。寶永六年。同七年
同十年。同十二年。同十三年
十月。同十四年。同十五年。同十六年

總成

玄蕃

大膳 和豊之部 官内

實休 檢校 長後二曹

享保十七年。又自十百。同十三年

○元文四年二月廿九日景徳廻の因
 年十月廿五日九景徳石口年
 十二月廿日布衣。寛保二年六月
 十九日

大綱言敵討の定意之年訓白箱
 石堂津刀お敵の年月の正儀らる
 対向時敵の存故。年月日大的務射
 と隣へ渡らるる。寛保二年二月廿日
 中絶疾布一昔行らるる。正徳とく

時敵二表揚二令之致揚。甲午年
 二月廿五日出た九景徳の因年
 十月廿日正徳所出九景徳昔行らるる
 五月廿五日因年十月廿七日
 敵討の因年十月廿日九景徳人
 政の書水之年四月廿日寛保四年
 四月廿日正徳所出九景徳の因年
 景徳の因年四月廿日寛保四年
 さるる。正徳所出九景徳の因年

延和四年十月廿九日
一月廿一日死七後
延和四年十月廿九日

長節 初二六

總史

初總壽

延享二年八月十日初
二年九月廿八日
二年四月十二日

○月四年二月廿八日
十月十日
又同日
日七年二月八日
九月六日
而和二年十月廿六日
一日令
○安永二年十月十日

年十月廿七日○天保元年
十月廿七日○

本水二年十月廿八日大御所御
お成○同日二年二月廿七日父の事
くく○同日元年二月廿七日父の事
日又年四月廿七日少社系御馬
山伏○同日元年二月廿七日神事
流福子對子日廿八日金之校御
○天保元年十二月廿七日御事○

寛政六年十月廿七日同組御事○
同年十二月十八日布衣○同七年
二月廿七日少社系御馬御事○
同年十月十九日御事○

總目

主膳 初書者

天保八年九月廿七日御事

様目少敬



海者

海系姓

高良百信

家紋下海
罌粟

海者海系姓高良百信

高良百信

忠久

高良百信年親海者海系姓高良百信
海者海系姓高良百信。寛文十年

六月廿九日死於門柳所祥雲寺
子葬

檀大馬

忠經

實年者也因心本初會

年九月表子家譜〇貞享四年

八月朔日橘田正敏出納戶〇室永元

年十二月八日

文樂院殿出依為左初〇月年十月

十二月之方出納戶〇同之年十月

出納戶組以〇室永六年十月十九日

出納者也〇同七年十二月廿日

加秩百位〇出德之年三月之方

出納戶以加秩百位〇同年十二月

廿日布衣〇享保四年二月廿日西

九里義忠者以○元文三年七月
十日死七十九歲同守子義

清和天皇 初久左帝

忠著

之昭

享保二年六月十二日初定○日十二
年六月廿一日出書後書○日十二
月十七日自光心○位守○日六年

七月十九日病免○元文三年九月廿
九日家守○享保二年十月廿日
死四十九歲同守子義

帝政

權太師 初庄之帝

實由与在實由送多官直救男

享保元年十月廿二日御長子○

日永年十二月廿八日家傳の事書信○
日永年十一月海軍の事書信○西永
八年四月七日日永の事書信○
寛政六年二月廿七日七拾年日
守中書

清九郎 初為右

忠誠

改仕如年

西永二年九月廿九日初見○寛政

二年十月九日山田組の因年六
月二日家傳の事書信○西永
元年十月廿八日改仕

久吉郎

忠實

寛政五年十月廿八日家傳の事書

信

常憲院啟

母友

高百石

有原姓

家紋
子
桐

祿有左源左利長三男

左源左

計三石

利直

元禄八年八月廿日少子利直生

如前二音傳同日年九月廿七日

宗姓組。元禄十年七月廿三日
百石知行母河原兼三百石徳住云
○享保九年八月廿二日病死。同
十二年三月十四日死。元山如妙
寺。子。葬。

利候

庄左衛門
美利長次男

享保九年十二月廿八日葬。長子。
同十二年四月廿二日家持。出。葬。後。
元文二年十二月廿九日。宗。姓。組。
○寛延元年十二月廿九日。病。死。
宝暦六年二月廿九日。卒。年。五。十。一。日。
寺。子。葬。

利元

庄左衛門
葛。子。葬。

宝曆二年九月六日家務山部信○
同年十月廿七日為元治性組○月八
年七月廿七日病免○安永二年二月
七日甲府勤務○同年七月廿八日出陣
○同二年七月廿九日甲府勤務
細之所注華年○

新次郎

利貞

安永二年十月八日家督用甲府勤務
○天明二年七月二十日甲府勤務

櫻田内殿



拜者

友京姓

高三首依

家茂所合

改草中納言家系濃兵衛守
城守母者友京氏物成

源次郎 初太郎在寫

利武

寛文元年 朔

天樹院殿作... 権田...
性祖... 定宝... 海...
... 延和... 延和...
... 延和... 延和...
... 延和... 延和...
... 延和... 延和...

延和

利矩

延和八年十二月九日...
性祖... 延和八年...
... 延和八年...
... 延和八年...
... 延和八年...
... 延和八年...
... 延和八年...

某

傳左馬

兄男子年廿二有疾者子之病也。
正徳元年十月十九日初見。享保
元年十二月七日死。

徳三郎

利重

享保十二年十月十六日初見。同
十三年四月廿日家傳。小治政也。
同和元年八月廿日改仕地。同。
安永七年七月廿六日死。享保二年
同守。同。

利重

徳三郎 初太師左

明和元年八月... 日... 政元年... 寺...

利海

示...

宣政元年... 清... 又... 十... 同...

相田

秋友 高百太郎依

藤原姓 家茂 下妻亮 豐妻

或同勝頼、臣秋友、以是清忠、今

男孫、有清忠、忠孝、之、長子

丞守 公遠

寛文三年、梅田清敏、勘定、切米百

倭○同九年○（？）○延宝元年
彼林乃方奉仍○同九年二月廿八日
上乃信林曾夜寺蘇

虫房

延宝元年

延宝元年九月廿九日

常富院殿法光九（？）公家小書法元
祿元年勸定○二（？）延宝元年九月廿九日

倭○享保九年同月廿七日
文正十一年七月廿七日
延宝元年二月廿九日
延宝元年九月廿九日

守章 又文部

文秋野市房右衛門保清次男
宝永六年十月廿一日

享保公造十月廿三日勅定○同十七
年分月廿五日御定組次○享保二
年十月國東筋川○享保三
年同定月廿五日御定組次
所相織○享保三年又月廿五日御定
小當造入○享保三年七月死六孫一
歲同寺長孫

重澄 公造 孫長史

享保二年十月廿七日嫡孫組次○
享保三年十月廿五日首當造小當造○
同九年分月廿五日組○同十一年
十月廿五日上代の御定組次○
安永二年十月廿五日御定組次○
○享保三年十月廿五日御定組次○

國寺葬

巫寧)

五七那

天明元年閏八月廿日家落小當道
○同一年二月廿九日小十組○同一年七
年一月廿日合京康助執子○同一年十
月廿日合京康助執子

長有

秋夜

高百儀孫介持

友原姓

友原 友原 友原

結吉府將軍 友原信助 友原利仁
後亂結吉府將軍 友原信助 友原利仁
友原國任人 友原利仁 友原利
之二代



利春

之房在奥

寛文二年十月新想小入組百俵
松村持○元禄二年病歿小入組
○享保二年十二月又見持○享保
三年十一月十日死漢子大松寺孫

利政

才之那

元禄十三年十月有家孫小入組
○享保四年七月小入組○正徳三年
九月七日死回与孫

利定

之房在奥

持之
和名

正徳二年十二月廿七日有孫小入組
○享保十一年二月廿八日死小入組

○之後病勢小當清○昭和二年分
十一月廿七日天明迄○二月廿七日
又兼大松寺

利寬

法友部

昭和二年分十一月廿七日當清○
同日九月廿七日組○同日年
二月廿七日の上野河坂二○在永

又年十一月廿七日社系依律波子板
○同年十一月十日病勢小當清○天
元年九月廿七日早二歲回与森

利久

飛鳥

天明元年十一月廿七日當清○
○實徳元年十月廿五日初見

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.]

本行

林友

高六白儀

有原姓

家改

九月内置友
細務九月九日

亦有今在馬村住次男

利實

松太吉

大猷院殿清代新起式白儀家永十三年

十月大正番の可治之字七月新置友

和歌文指依。其後病歿。小菅清。延宝
二年閏月廿日死。鳴子西方寺葬。

古時

安永

安永

安永七年十月十日。大菅。延宝二年
十月拂方。納戸。其後病歿。小菅
清。安永。同六年十月十日。百符
寺葬。

利盛

瀬尾清

安永

延宝二年七月。大菅。其後病歿。小菅清。大
和二年。二月十日。大菅。同二年。二月十日。
方。納戸。其後病歿。小菅清。同二年。二月十日。
行。同二年。十月十日。大菅。其後病歿。小菅清。同二年。
十月十日。大菅。其後病歿。小菅清。同二年。

正月十日死年十七歲葬于金蓮寺
葬

齋次

伴右衛門

寛保六年七月九日齋次齋次○同日
二月廿七日大齋齋次○安永三年
二月廿日齋次齋次○同日
月十日齋次齋次○同日

利紀

長右衛門

辨流

主權左衛門齋次○同日

明和元年九月十日齋次齋次○同日
翌月初八日安永二年齋次○同日
同日十月廿九日齋次○同日
同日百廿日齋次○同日
上院河板二〇

熊利

秋入臣

其伴左衛門盛次之男
安永七年十月晦日養子の天保八年
二月朔日初見

麻友

高武百九

藤原姓

友及

少者老

少祖不詳

忠吉

惣右衛門

慶長十三年十月廿九日初見○寛

永享元年十月廿九日初見○寛

京成 惣領

慶安十二年

東照宮小初人○同十九日午後四時

供養○實永二年十月十日

斗余○

大猷院殿 敬有院殿清代

室之字十月十日

○是實三年
青土百卷

某年命
留御

心平

惣領

慶安之字七月十日

和之字十月十日

九國十日

京成

平左衛門

寛文九年十月三日自京都信託寺
西○同家子十月三日自京都信託寺
十月九日自京都信託寺
九月十日自京都信託寺
信託寺

道成

抄

宝永二年四月六日信託寺信託寺組

正徳二年八月七日信託寺
十月十日自京都信託寺
九月十日自京都信託寺
九月十日自京都信託寺

理啓

平在島

惣八郎

寛保二年十月三日自京都信託寺

九月十日卯未動の同日十月十日卯未
動の宝曆元年七月十日卯未動の同
年十月十日卯未動の同日十年
十月十日卯未動の同日十年十月十日卯未
動の同日十年十月十日卯未動の同日十年

前
理氏

仙居所

次上至

天の元々九月十日卯未動の同日十年十月十日卯未
動の同日十年十月十日卯未動の同日十年十月十日卯未

前上至
長男
理氏

惣大書

重之丞

四月十日卯未動の同日十年十月十日卯未動の同日十年
十月十日卯未動の同日十年十月十日卯未動の同日十年
十月十日卯未動の同日十年十月十日卯未動の同日十年
十月十日卯未動の同日十年十月十日卯未動の同日十年

理國

務吏部

三明公家書有甚多初

宣政二年八月三日
宣政二年五月五日
五月廿六日
五月廿六日

亦友
友系姓
友系姓

先祖系洋

久次

文苑

東照文在德院殿口書後百餘回

○年內自不知記葬地不知

沖徳

文苑

美奈倉次郎左衛門正平次男

右徳院殿清代兼美奈倉守俊成之元和七年
死於蘇地左之記

正久

文苑

美奈倉正久左衛門正次之男

右徳院殿清代兼左衛門正久左衛門正久

和七年左衛門正久左衛門正久

小日向輔右衛門正久

貞時

仍左衛門

正久

美奈倉林正久左衛門正久

美奈倉院殿清代兼美奈倉守俊成之元和七年

百歩組之縁年十月八日拂方所
納戸の同十月十日百歩當道の心徳
又十月九日死小島梅吉英

貞次 妻老女

実貞厚次男
天和三年二月廿七日病歿の
心徳又十月廿九日死小島梅吉英

保年二月廿七日病歿の
又十月廿九日死小島梅吉英

心徳

妻老女

文苑

実花形仁左衛門勝之次男

心徳又年表女子の京保公女二月廿
又自家借小島梅吉の同七月十日廿二
日十八組の同十一年小島源平津橋

書後之法用麻正紙紙○同十二年
同月廿九日○同十七年同月廿日
之方用納戸○之方又五年九月廿七日
手紙○實延元年二月廿六日為
正用紙所向之方右紙後紙又紙○同
年十一月廿九日

大納之敷用紙道中用紙動身後後
又紙○室曆之年十一月十日用紙

7 明元年十一月廿九日發紙又紙○同十一年
三年十一月廿日

許書樣之儀相府用紙用同九年
一月許書用紙又紙○同十一年八
月廿日田端官婚禮用同十年十一月
廿一日紙又紙○同十一年十一月廿日
許書樣可書紙用紙又紙○明和
六年十月廿日西九月許書用紙又紙○

同年十二月布衣○安永八年十二月廿
二日老幼人可振之券合○同九年十月
十九日仍任強岳料武白儀○天竺宮子
二月廿六日死八十二歲同寺葬
寛保五年十月十六日方淨御
同公并子幼女也其仕意付淨御通
安永同十月十七日淨御

正方
和心閣
金藏 才九郎 比左衛門

寶曆二年十二月廿六日決男惣領○同
年二月十七日初元○明和元年同
月十二日大津藩○同安永二年二月十日拂
方淨御戸○同安永二年十月廿九日
○安永二年一月廿九日社奉儀被授

松坂の同年八月百於中藏之馬川後
上府の同分獲合武校の同九年十二月
十九日家譜の天の同年七月廿七日
中藏之馬川後上府の同分獲合武校

正念 全統 之活那

天の同年十月十五日初見

松田所蔵

齊藤 萬百五才儀

藤原姓 家茂 光内陸萬

先祖不詳

五才美

洪義

寛文七年十月八日松田田中屋川方
石丸。天保十三年七月十日同續年

德院殿廣義源寺。寶曆元年十月七日老
之慶^銀才杖。同二年十月廿三日在
○明和七年四月十日牛一尾渡回

五重美 舟本衛門

洪隆

寶曆十二年十月廿三日在。明和元
年十月廿七日。

德院殿廣義源寺。同二年六月廿一
流小普請。同年十月廿七日。
河基^銀廣義源寺。同三年十月四
日。安永八年四月廿四日。中元也
。天明元年四月廿七日。側長局所
修護所用。同三年五月。西元本殿
長局所修護所用。同年十月大
。長局所修護所用。同年十月大

浩教

猪才郎

鏡理郎

寛政元年八月十五日初見

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

横田山

齋藤

高百五郎

藤原雅

家茂抄子

先祖不詳

与方園門

高初

萬治元年正月十日浪合了至 百五
俵五之林村。同一年正月三日結中興

頭取役。元禄十二年十月十五日。元禄
築土門跡守中法光寺

朱九拜

守表

元禄元年十月十日。音部屋住より
下地井川堀廻り。同日。元年十月十五日。元禄
別家成百俵五之持持父家持。留置

四拜次作高生下中。寶永元年十月。愛土
圭河多百五拾俵。成。同日。元年十月
即末末助。正徳三年十月十八日。同日
普清。延享四年十月四日。元禄末末末
同日。

守知

七五拜

延喜四年正月廿四日家曆。寬治四年三
月廿初見。寶曆六年六月廿六日家
三系並同。

守宜
半九系

寶曆六年九月六日家曆。明和三年十
月三日表出若兔。安永四年九月十八日亥

若兔。寬政五年正月三日其表出
廣義多頭。同九年七月廿九日。安永
六年並同。

守美
金一系

寬政三年正月十八日初見。同四年正月
晦日。同九年正月廿二日。天の始

城武。同九年十月三日家督。同十年
三月十日。以夫命時服武

後田代

齋藤

其百五拾儀

藤原種

家致

梅子
李色

先祖不詳

上考團乃

高初

萬治元年五月去浪令後田代
此百五拾儀。同三年五月言

神皇正統記卷之六。元禄十一年十月
十五日。神皇正統記卷之六。神皇正統記

高生 四神次第

元禄元年二月十五日。神皇正統記卷之六。
神皇正統記。同日。神皇正統記。同日。神皇正統記。
神皇正統記。同日。神皇正統記。同日。神皇正統記。

神皇正統記。同日。神皇正統記。同日。神皇正統記。
神皇正統記。同日。神皇正統記。同日。神皇正統記。
神皇正統記。同日。神皇正統記。同日。神皇正統記。

高房

高房 高房

元禄二年七月四日。神皇正統記。同日。神皇正統記。

八月廿三日表出方免。明和五年十月
廿九日出役。大由重多信。安永元年有
五元正。元正表并同。

表出方

高章

置着且庚寅門山盈男

置曆二年十月七日撰卷子。同十年上

月廿二日初見。同十年亦有廿八表
免。安永元年三月廿八日實改五年五月七日重表出開書
頭

表出方

高章

置曆二年十月七日初見。實改三年
八月表出方免。同四年亦有廿

妻岩若見言。同五年二月廿四日。右
筆

齋棟 高百俵五尺杖持

藤原雅 家致 丸内梅子

先祖不詳

在老園門

義盛

年月不知。至山見乘没。元文三年
八月九日。葬於海川心初寺

三友園

盛安

三友園傳本傳の某月

養子。正徳元年八月廿七日父路後所馬
取。貞保七年房州峯園に牧山所立
用。峯園に牧狼多し此の年思治成
作。峯園に馬房山所傳の者

狼毒薬。傳授清狼捕り。同十三年正月
去日五疋儀三三扶松山所傳。合百疋五扶松。
此船の船乘渡日馬場兼養本園に松作也。
阿蘭陀へケラシケラシケイシケキ長島表。
長島表の馬方ケイシケ子。住居松古。居
ハルマ馬。阿蘭陀は州度。土佐島助
右馬洲は傳は里國日州。松あり。子
相傳は里。松ケイシケ。松。松。阿蘭

○公三行節日奉馬之阿蘭陀住也作
月度は日奉馬之阿蘭陀相好。
其係年十月廿日能離和由屋
麻類。實係元年甲子馬類。延
享三年九月相。

春相好。實延四年七月十二日奉馬

後河原殿所代阿蘭陀馬類上夜儀銀

儀銀頂戴。正月十日中吉初節中相
好節上時服式。安永五年五月廿日
致は儀銀式程。同永年四月廿四日八
十四日奉馬并同好。

藤之助

盛次

奉月不御奉馬類之馬類見留。

房家奉國中教中用見曾度。奉國上拜越
。明和五年四月廿四日。此年三歲。奉國

安長

曾著盛次長子

明和五年五月廿三日。嫡孫承祖。同七年
正月七日。初見。同八年十月廿日。見曾
見曾同。房家奉國中教中用見曾。安

永五年五月廿日。家孫。中馬類房家奉
國中教中用。曾傳。阿蘭陀奉行。上流相
知。寛政三年正月廿六日。德右。同年
八月廿四日。北守。奉國中教中用。同寺。

安榮

奉國

兵衛門 虎之丞 兵衛門

天曆六年正月七日初見。同七年二月
某日見預見。房部。奉國。中教。用。
寬政三年正月十日。見。預見。同。
四年正月。中官。初。用。相。教。所。服。式。同。年。
二月。十日。見。預見。用。可。教。者。同。五。
年。正月。廿九日。見。預見。用。同。年。六。
月。十八日。見。預見。用。同。年。七。月。和。
同。年。八月。十日。見。預見。同。年。八。月。和。

東山宮廟

孫孫

高三孫儀式

藤原姓

家教

曜表

先祖不詳

年表圖

茂政

天曆六年

東山宮廟
奉國
中教
用
同
年
六
月
十八日
見
預見
用
同
年
七
月
和
同
年
八
月
十日
見
預見
同
年
八
月
和

鳴海... 寛永九年四月... 華...

其書門

氏保

寛永九年六月... 寛永九年四月...

朱右門

政一

寛文四年三月... 寛永三年... 辛...

吉吉美

茂信

元禄十五年四月家持
配當り多。寛永五年四月廣義存
加者。同六年四月
元禄三年五月

平助

正富

元禄三年九月四日
寛永元年十月廿九日
同四年十月十日
同五年十月十日
同六年十月十日
同七年十月十日
同八年十月十日
同九年十月十日
同十年十月十日

甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日

若君部証書。甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日

田原宮部証書。甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日

甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日

其
平藏

甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日
甲子年九月九日。同身者有九月九日

有文八年

平八郎 平助

茂實

田村

實子 實某男

安永四年 正月 壬子 春子。同五年八
月廿二日 初見。天明三年 正月 廿七
日 督。同四年 同月 廿六日 勘定。同八
年 正月 十四日 元甲 七 録 茂 同 子

茂延

平次郎 平助

天明八年 正月 廿七日 家督。寛政八年
正月 廿五日 初見。同九年 正月 廿八日 配
勘定 出 没

大森屋

源

義

萬五音名

幸卷
与玉

源姓

泉教

別號
在內

新羅三郎義光流

藤井安親

信忠

初世田信玄同勝賴傳信長

東宮宮中近衛中納言兼左衛門少輔

七初如先親公事古事。甲申口林口類。
慶長十五年日。嘉永元年。長安元年。

清藏

信

東宮宮中。長安元年。長安元年。長安元年。
長安元年。

市
長安元年

信茂

慶長十五年。長安元年。長安元年。
長安元年。

慶長十五年。長安元年。長安元年。
長安元年。

長安元年。長安元年。長安元年。
長安元年。

市
長安元年

市
長安元年

元和九年二月方之新規中八。西光之園文
配分之中返成。寛永十三年中初。承
應三年中初。組頭。寛文二年。在。三
歲

右年卷三。面方。新規。家。只。信。氏。後
家。籍。姓。氏。別。家。成。信。氏。家。無。一。次
不知。年。卷。五。年。在。齊。孫。名。集。由

市部有門

年貞

慶安三年正月廿六日。中書院書。寛文
二年。家。籍。同。七年。期。在。三。指。七。家

善書有門

年規

噴者河野長宗。有門。吉。也。男

養子。實支七年。十月。家督。同三
年。十月。五日。元。同。二年。十月。五
日。淺草。同。藏。同。二年。三月。二。天
中。為。組。頭。同。七年。加。料。式。百。俵。心。德
四。年。同。月。廿。日。中。先。中。鏡。炮。頭。百。俵。四
年。十月。廿。日。病。之。息。同。十年。二月。廿
日。同。二年。同。月。廿。日。北。條。大。原
法。善。寺

善方團

幸雄

寶永六年四月。二。日。中。姓。組。百。俵。九。年
十月。廿。日。元。同。十年。二月。廿。日。家。督
西。丸。中。姓。院。等。同。十四。年。七月。廿。日。西。丸
指。八。家。善。寺。牛。込。宗。丸。寺

銀五升

朱金

其保四年閏九月十六日奉旨。同日十一
年四月廿七日奉旨。元文三年三月
廿六日西九中姓組。實保元年十月廿
九年九月奉旨。同日。

善方團

奉經

實保元年閏九月廿七日奉旨。同日。

實保元年十月廿七日奉旨。同日。實
保二年二月廿五日奉旨。同日。實
保三年三月廿五日奉旨。同日。實
保四年三月十七日奉旨。同日。實
保五年三月廿五日奉旨。同日。實
保六年三月廿五日奉旨。同日。實
保七年三月廿五日奉旨。同日。實
保八年三月廿五日奉旨。同日。實
保九年三月廿五日奉旨。同日。實
保十年三月廿五日奉旨。同日。實
保十一年三月廿五日奉旨。同日。實
保十二年三月廿五日奉旨。同日。實
保十三年三月廿五日奉旨。同日。實
保十四年三月廿五日奉旨。同日。實
保十五年三月廿五日奉旨。同日。實
保十六年三月廿五日奉旨。同日。實
保十七年三月廿五日奉旨。同日。實
保十八年三月廿五日奉旨。同日。實
保十九年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十一年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十二年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十三年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十四年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十五年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十六年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十七年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十八年三月廿五日奉旨。同日。實
保二十九年三月廿五日奉旨。同日。實
保三十年三月廿五日奉旨。同日。實

甲子日御湖上夜夜物武。安永五年甲子
八月日星出也。

善吉寺

幸道

安永九年十月十日者初見

學堂見也

齋藤

高百五藤集

藤原

家教 三萬

城國臣齋藤公國門長子也後者公孫
次孫也百五藤集

正高

齋藤

齋藤新八郎
本百藤集次孫

貞享三年甲子
八月日星出也
以下
以本藤原國門長孫

めくれず

甲廿日御河上夜支物貳。安永五年宵
八日早止世。

善吉昇

幸道

安永元年十月十日者初見

菅原氏印

齋藤

高百五藤集

藤原

家茂 三萬

山城國佐美郡藤原氏長子山後者云
次子山後長子

正高

正高

齊藤新八郎
正高藤原次子

貞享三年中^{三月}下^月中^日子云齋藤新

八尋^改氏^印 不受不旋宗門印宗系

侍身遠鳴。元禄十三年遠鳴より。○
 同十四年三月に在りて沙書百五拾儀
 六卷圖門改。同七年七月に中初也。同
 年三月布衣。同十五年十月廿二日死
 葬中友卷玉院

正辰

宗真門 少少圖

義山

撰并七卷圖門改書原外
 宗著撰并宗真門改命四男

元禄十五年十月養家督。同十六年
 四月に沙書。寶永五年四月に相商多
 。同六年四月に一統書書請。貞享元年
 十月に普清金取集。同七年四月に勘定。同
 十一年八月に取箇年堤川除普清以請
 用郡。元文四年八月に勘方考より普清
 入。寛文三年四月に普清金取之夜。○

同五年十月廿九日普清取後法皇
朱餘相每少年普清金也。用和
年四月十日在。同三年正月七日在
同寺

新八年 源三村

正成

貞保八年二月廿七日。元文二年正月

口証生用城。同年六月慶賞。實保三
年十月南東節川口普清用。同三
年九月慶賞。同年十月武部玉川
中普清由末方。武藏野新田場目。用
。同年二月廿五日代官。寛延元年四月
朝鮮へ奉朝用。拜領物。寶曆三年甲午
川口普清用。同十三年朝鮮へ奉朝用
。同年八月十日用。亦用奉。病氣

同天下復生野陣在長壽寺同葬
有花葬同於福壽寺

新八神 七丁

正良

實者正成

實曆四年三月十四日
實曆四年三月十四日
四月十日
安永五年日
同七年十月九日
同九年四月廿九日

葬上谷卷五寺

源八神

正邦

安永三年七月八日
實政三年九月廿五日

宗門 六志助

宗

寛政三年三月四日奉書

常憲院

宗孫

高百五拾俵

藤原姓

家紋 五右衛門
九百自倍

先祖不詳浪人宗孫宗門用利長子

与一拜

用洋

寛永三年二月廿一日新組出立其間事上
棟抄分金貳拾五匁。寛永三年九月廿日

口切本古展取自佳風収云。寶永七年四月
十八日發五指儀。會五指儀。正徳六年正月
十二日於元一四書法。貞享八年正月
十七日於元七年正月并増上寺中深蓮院

不實也 元内 子一併

用通

貞享十八年正月廿七日。是時。元文三年

正月十二日表出若免。延享元年正月廿七日
正奉。同三年九月朔西苑勅。寶曆
九年正月廿七日病免。天明元年七月十
二日元正六歲并同古。

子一併 久藏

用卷

置者初後五昌用言長子

安永三年正月十四日續卷子。天明元
三月廿九日

年九月八日家譜。同四年三月廿三日
 人。寛政元年正月廿六日新御書。同七年
 三月廿五日屋敷。

天保四年九月廿八日以上簡の衣物貳。同七
 年九月廿六日。又的付服貳寛政十年。延慶
 初念元冬。寛政元年十月廿五日。衣物及物
 貳。同五年正月十六日。以上場給の付後
 貳。同十八日。念元冬。同十年三月廿五日。以上

年の衣物貳。同年正月十八日。海草等
 御感事。鳥羽田同廿九日。付後三

東 全書

享和元年七月三十一日

東照宮御代

御友

後系姓

高之百像

長俊

豐後

夫若

能子

之祖不審故後二年右建之正福
嫡男

全務

宗海

正志

東照宮清代小田原清城山而居。
江府初九由居而居。死葬此之

忠成 忠成

之相元年十二月少之相。寛永十
五年少之相。万治二年以船長
。正宝六年以船長。天和四
年二月十六日死。年也七好寺所

久成寺山家

忠光

又市

寛文元年二月八日横田清教以書
院由。正享元年十二月十二日由院以
。貞享元年二月七日由院。元禄
四年病免。正徳元年二月七日
七年六月廿七日由院。國林山家

名

休官

庚 武蔵源氏公誠忠領
治承六年四月十日始領水租。以
十月廿日為始務小當。享保十之
二年二月十日刑部公敏進智毒。以
十月廿日為始務小當。以文
治元年九月廿日為始務小當。以

元年四月二日病免。以和元年分
八日為始務小當。以治承十年
九月廿日為始務小當。以治承十
六年。天治元年六月廿日為始務
小當。以治承十六年六月廿日為
始務小當。以治承十七年六月
廿日為始務小當。以治承十八年
六月廿日為始務小當。以治承
十九年六月廿日為始務小當。以

忠祝

武文 宋女 又七郎

丁卯之春九月二日家書。○○○○
九月八日○○○○之函約互為式

忠包

大老

矣 酒井大膳忠親次男
寬政二年十一月甲寅卒
○甲子子之月方吹上憲的及
物武

補

秋友

友系姓

○○○○

秋友

首札

豐友

濃河橋系山之城主秋友因
舟利之口代孫秋友之計利
也

利改 又物

寛文三年二月有祇園沙致(西法
西)よりくまの道(西)院番之
西像。同八年十月七日西丸(西)所
組。同和之。○九月廿三日小倉(西)
。元禄十二年十月廿六日死。年一。某(西)
某(西)云寺小(西)集

利治 又物

元禄十二年十二月九日家持小倉(西)
。同(西)年九月十一日死。年一。某(西)
小(西)集

利曲 又物

利(西)及(西)次(西)男

元禄十一年十一月廿一日
○享保七年二月十日
○享保七年二月十日
○享保七年二月十日

打貝 古書

享保七年二月九日
○享保七年二月九日
○享保七年二月九日

享保七年二月九日

利雄 古書

宝曆二年十二月廿六日
○宝曆二年十二月廿六日
○宝曆二年十二月廿六日

東照
名德



祿者

後京姓

高之百像

及
大若

母友之部九萬十未卷子

心忠

金糸

其

不知

養父宮在萬壽宮之北
之河紀在唐相公小田原清城也
而為名。江府一在城而為也
守北。張兵。竟文七年六月十日
死年也七好寺町久成与山集

金七郎

正吉

大猷院敏清代元飛守与名。正吉

六年十二月廿日死口寺山集

源右馬

朝平

正利

教乃院敏清代山小性也。天和元年

七月廿日死口寺山集

正房

平左衛

天和元年九月廿三日書院成。貞享四年
九月廿八日書院成。貞享四年
七月廿八日死。年三十九。寺山集

心久 伊織

貞享四年十一月九日書院成。貞享
四年十月十八日書院成。九月
廿八日死。年三十九。寺山集

貞享四年十一月九日書院成。貞享
四年十月十八日書院成。九月
廿八日死。年三十九。寺山集

心右 ^{カケ} 勤貞 伊織 哉次郎

享保二年六月廿九日書院成。元
文元年六月廿九日書院成。貞享
四年九月廿八日死。年三十九。寺
山集。天和元年九月廿三日書院
成。貞享四年七月廿八日死。年
三十九。寺山集。

老免齋書あり

正明 平左衛門 玄庫 孫 命

石野 織部 廣成 次男
宝曆十一年六月十日 養子 女
永六の七月十日 西九山 玄院 成

玄庫院 成

母友

高之百 像

友系 姓

家紋

雙麦 夫 著

麻 藤 全 齋 正 次 男

正勝 出次 脚 志右 衛門

元和六年 初見。以 年 十 月 次 男
あり 小 少 人 組。寛政十年 月 組 以。

万治五年川船奉行。正享六年
治承元年。貞享元年。二月十日
卒。之歲。年。也。久。成。寺。之。墓。

貞春

八代將軍

卷八

正保四年十二月廿五日新出番。意文
二十二月病歿。之祿十二年寅
晦日死

貞重

玄九郎

貞重。久保。玄九郎。出。成。七。男。
之祿十四年四月十日出納。之
永三年二月廿八日死。年。不。知。日。也。
之墓。

心。成。

心。成。

宝永二年正月九日歿。享保
十六年十月十九日死。寺小築

貞孝

名物

享保十六年三月七日歿。小築
清。同一年四月七日歿。清。
之文。之。三月七日死。平八。築。同
寺。小築。

正方

忠次郎

英。秋。為。事。物。正。良。次。男。
之。文。之。之。七月二日歿。小築。同。
日本。十二月。其。有。大。之。為。之。正。享。元。
之。九月十日。之。方。也。納。戸。之。正。享。元。
年。正。享。元。八月。死。早。十七。築。同。寺。小。築。

心交

八代妻 乙未年 清和帝

實 為^源源在妻 四房次男

室曆九年七月廿日 養子 乙未

乙未月廿日 養子 乙未

三月廿日 初見 乙未

乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年

乙未年 乙未年 乙未年
乙未年 乙未年 乙未年
乙未年 乙未年 乙未年

心交

乙未年

乙未年 乙未年 乙未年

有由亮
祿友

者原姓

之三百石

女紋

明禮妻
丸梅内格紋
九曜

祿友之者妻射信右次男

利政

大系 弘之卿

之百石分知享保十年十月二日小普

清の甲子年六月廿九日西丸出帆。同日午の頃申方利船の敷七羽番の之文元年十二月甲子病免。寛保二年四月廿九日卒。年六歳。下以地心印妙寺山葬。

利中 力主活 教馬

庚 祿後九條太利紀又男

寛保二年七月廿日若子。幼格小菅清。以の旨合大津番。寛正二の旨方之旨新番。女永三年三月十六日死。年四歳。同古了了葬。

利常 瑞之師 宣之丞

庚 能辨高心師一英又男

安永二年同日行日軍卷子。同日
二年正月八日家書小當。同日七
月三日平二日大清書。○竟及子
六月三日法茶。○行。○本卯年
建勳。○三。○日。○子。○六。○日。○卯。○年
張。○身。○西。○藏。○奉。○行。○清。○免。

○ 栴田部

友系姓

高武百依

長段 花月名洋段

上今野ノ蝶

之祖之書山城國浪人部田權右
之春熱願

之之

平三郎

栴田清敏。○山。○院。○書。○西。○切。○本。○武。○百。○依。

栴田

○寛文三年六月十日死

之及

後十郎

櫻田清敏侍書院番。之稱字
土月晦日没在。宝永三年四月
初日死

之務

後十郎

實 近山と云馬の官

貞享三年四月九日卒。長子。以子

乃于十一日初死。之稱。三年。以務

小書信。以於十一月廿二日。櫻田殿

清小性組。之。永。六。子。十一月九日。為

丸。燒。火。之。百。比。為。以。於。年。十一。月。十。日

大。清。番。之。享。保。四。年。八。月。小。書。信。之。

以。於。年。十一。月。廿。六。日。没。在。以。於。年。

八。月。六。日。死。守。衆。甲。列。書。信。可。法

輪寺ノ集

之約

竹節

享保八年十一月廿六日御猪小普請。
同日十一月廿三日甲府勤番。同日。
九月廿八日御初見。享保九年
十二月十七日御番及十日御勤番。
享保十二年十一月廿四日老免御受合夜。

享保十二年十一月廿九日御番。享保二年
九月十日御番。享保八年御番。享保二年。

之及

権之丞

享保十二年十一月廿九日御番。御番。
享保二年七月二日御番。享保二年。

之載

文藏

以中

元暦中三年十月廿七日甲子卒。勤王。
明和七年十月廿七日卒。七十七歳。門寺
小倉。

之定

秋之節

實 同姓傳八節之約三男
明和七年十月廿七日卒。勤王。門
公。六月廿六日死。以与不葬。

之茂

西之節

實 藥師寺次郎左衛門之俊健之男
明和八年九月廿七日卒。中府勤王
。安永七年二月廿七日卒。上野勤王
。月廿七日卒。意之。六月二十日卒。
死。早。氣。以。寺。矣。

之定

傳八郎

庚 同左松平所當の三男

寛政四年六月廿七日卒 養子。

同父の三子也 日与格小當也。

同年四月廿日 甲府勤番

大猷院

○ 亦田

二位 藤原

高式百僚

源姓

唐月名法定
唐月格授

敦美親王より九代孫位と本五郎

義清後流泉列松浦氏人二位田代

守之氏嫡子二位田代格之親孫

二位田代格之定男亦田九代

之次惣領

心勝

南大寺

始誠前宰相忠直公（身仕寛永元
年浪人の）以中二年十二月廿八日并
遠江吉村渡右田備中守資宗
西行少（寺）右等（公）出（元）武
百俵。以曆三年九月九日（記）
龍光寺に葬

之村

長岳坊

寛永十八年（寺）右等（公）明曆元年
父死回高。万治二年十一月廿九日
卒。大藏門寺に葬

之信

長岳坊

源右 殿斗

元弘元年三月
六月卯九

万治元年二月卯酉。寛文十年
三月卯右筆。之禄十子八月廿日
津波津免。室永七年七月廿七日
仕。享保六年八月廿七日死。干家
寺山葬。

善た妻 始宮内 赤井

之類 市川たつ菜男
之禄十子。七月廿日。享保六年。室永

七年六月家督。享保九年八月廿
二日甲府勤勤。八月廿八日。最
御用。室永三年八月廿日。室永
。口七年六月廿日。臨后。八月廿
。四月廿日。死。甲府。相屋町
。八月廿日。一。舞。

之禄 喜八郎

宝曆六年六月廿四日家督の書の二
年六月十八日此の十二日

之長

彦次郎 恭慕

其 井田右左衛門之通之男
寛政元年十二月廿五日
四月二十日
死

之如
之如

満茂

其 柳宗右衛門
寛政元年十月九日
七月

常憲院印傳代

齊田

橘姓

高百字條

長紋 丸柘枝

先祖不審

光陳

室光惠

和宗因

貞享四年八月廿一日浪合より赤坂場
之條之口九月廿一日赤坂場より

甲子の初（百四番）宗永六年
二月廿一日統小菅清。享保元年
二月廿一日死。西小菅寺中管林寺
了。一。一。

名不知

光重

名不知

享保元年。好格小菅清。

甲申八年二月廿四日。勅定。宗厚二
乙卯年九月死。宗十一。一。

光倫

八十郎

享保元年十月廿九日。勅定。宗正
乙卯年十月廿六日死。宗十七。一。

光亮

宗正郎

光彭

忠右衛門

丁卯年二月首行勘定。竟及六
年四月三日紀口与身

光貞

忠右衛門

竟及二年九月廿五日孫永祖。
口九〇八月廿日孙孫小常孫

○櫻田御所
○御所本

平姓

高百守依

衣紋

云々
九月并筒
上服
六七之相

葛原親王之後胤。藤原氏人村山
修以元之賴。坂本列位。史記。本村
氏。本村。本村。本村。本村。

心家

忠実な妻

寛文元年松田清敏とをひしき人
より心あはれる縁なきは心室者組
共力にておえの心月記

心室

忠実な妻

夫 井野口小九郎某男

延宝八年養子。天和元年四月
母智父阿の〜。之縁十〇百
甲列中山奉行清貞の江戸二年
四月は縁あり。出助定。心徳元
年加杖大権儀合而守儀。江戸
三月十日病死。享保十四年六月
十日は江戸名園坂心徳子と某男

心虎

忠実な妻

春阿

室永六年四月廿六日幼少の事候
十一年六月廿四日父死候事。更後之
年七月漆事候。正享元年神宮
御用兼役。四年十一月日之儀
後四道より入る。意正五年
九月病歿。室永四年八月廿九日
年二歳。同寺に葬。

正成

正四年 左次郎 正成

正成六年六月廿三日幼少の事候
正成十年七月廿日幼少。正成二年
正成廿二日早公家同寺葬

正順

正順 教子

正順二年六月廿九日家母小者
正順六年七月廿六日小主人継。正順
正順十年七月廿九日家母



上之太の阿波の国々〇分十〇日市佩
唐物村唐子一の族而一及〇天の元年十月八日大の
時折下の日之〇九ノ十ノ九ノ族物乃物本

正威シケ

萬次郎

寛政十一年己酉九月廿八日



